脳にダメージを与える脳梗塞について聞きました

生活習慣を見直して健康的なシニアライフを

季節の変わり目には「気をつけた方がいい」と聞く、脳梗塞。
“怖い病気”と思う前に、原因や予防法を知って、“万が一”の場合に備えませんか。
とみた脳神経クリニック院長・冨田洋司先生に聞きました。

とみた脳神経クリニック

とみた脳神経クリニック
院長 冨田洋司先生

神戸大学医学部卒業。同大学大学院医学研究科博士課程修了。医学博士。日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医。2012年11月、とみた脳神経クリニック開院

脳梗塞は脳卒中の中に分類される一つの病気

「脳梗塞というのは、脳卒中“のこと?”」と、思っている人も多いのですが。

「脳梗塞は、脳卒中の中の6~7割を占めています。脳梗塞は、血管の詰まり方により、『ラクナ梗塞』『アテローム血栓性脳梗塞』『心原性脳梗塞』の3つの病気です。脳卒中は、脳血管障害ともいう、脳の症状の大きな“くくり”です。まず、脳の血管が破たんして起こる出血性の病気には、脳出血やくも膜下出血がありますが、脳の血管が詰まって起こるのが、脳梗塞です。脳梗塞は、脳卒中の中に分類される一つの病気なのです。「血管が詰まりかけていたり、出血性の病気が大きい脳梗塞。「やはり、予防が大切です。脳梗塞の原因は、高血圧や糖尿病、高脂血症、肥満など。そうならないために、喫煙や飲酒といった生活習慣を見直すことが重要です」と冨田先生。

また、より積極的な予防法が、脳ドックの受診です。「血管が詰まってからではダメージが大きい脳梗塞。「やはり、予防が大切です。脳梗塞の原因は、高血圧や糖尿病、高脂血症、肥満など。そうならないために、喫煙や飲酒といった生活習慣を見直すことが重要です」と冨田先生。

また、より積極的な予防法が、脳ドックの受診

中高年の人は定期的に脳ドック受診を

このように、なってしまってからではダメージが大きい脳梗塞。「やはり、予防が大切です。脳梗塞の原因は、高血圧や糖尿病、高脂血症、肥満など。そうならないために、喫煙や飲酒といった生活習慣を見直すことが重要です」と冨田先生。

また、より積極的な予防法が、脳ドックの受診です。「血管が詰まりかけていたり、出血性の病気などを早期に発見するには、MRIなどで検査をする脳ドックを案内しています。中高年の人なら、1年に一度は脳ドック受診を検討していただくのが望ましいですね」

脳梗塞は、血管の病気。「まず、自分の生活から、血管に負担をかけている部分をピックアップして、生活習慣の改善を目指しましょう。そして、脳ドックなどで脳の状況を把握して、治療が必要な場合に備えてみては」とも。一度、チェックシートで確認して、気になる場合は相談を。

「脳梗塞は、年齢を重ねるほど、急カーブで発症するケースも多いです」

もしも、「脳梗塞かも?」と疑わるような兆候(チェックシート参照)があれば、早めに医療機関の受診を。また、明らかにマヒが残っていたり、意識がないなどの重症の場合は、すぐに救急車を呼びましょう。

広々とした待合室

同クリニックの脳ドックでは、1.5T超伝導MRI装置を使用。脳ドックは、標準コース4万2000円

同クリニックでは16列マルチスライスCTも導入。MRI検査やCT検査は、紹介状なしでも受診可能

脳梗塞の前兆かも? このようなサインがあれば相談を

- □ 片方の手足・顔半分のマヒ・しびれ ※手足のみ、顔のみの場合もあり
- □ ろれつが回らない
- □ 言葉が出ない
- □ 他人の言うことが理解できない
- □ 力はあるのに、立てない、歩けない、フラフラする
- □ 片方の目が見えない
- □ 物が二つに見える
- □ 視野の半分が欠ける

問い合わせ
とみた脳神経クリニック
尼崎市武庫之荘1-19-5、武庫之荘メディカルキューブ1階
☎06-6434-1236 http://tomita-clinic.net/